四谷の千枚田だより

第253号

新城市功労者表彰式

九月二十八日（土）市役所四階会議室で、令和六年度新城市功労者表彰式を行われました。

受賞された方は、市功労者表彰条例（新城市功労者表彰条例に基づき、市民福祉の向上又は市政の振興に寄与し、その功績の顕著な方を新城市功労者として表彰（公益功労表彰及び市政功労表彰）します。）に基づく公益功労表彰者六人、市教育委員会表彰規則に基づく表彰者六人、感謝状贈呈要綱に基づく贈呈者九人および四団体。

感謝状贈呈要綱に基づく贈呈者四団体に鞍掛山麓千枚田保存会が謝状を拝受しました。

速報

令和六年度「豊かなむらづくり全国表彰事業（東海ブロック）」の受賞団体が決定。

農林水産省は、農山漁村における「むらづくり」の優良事例を表彰し、その業績を広く紹介することを通じて、むらづくりの全国的な展開につなげていくために、農林水産祭のむらづくり部門として「豊かなむらづくり全国表彰事業」を実施している。

このたび、東海農政局管内（岐阜県・愛知県・三重県）から「東地区集楽環境保全会」が農林水産大臣賞を、また、「鞍掛山麓千枚田保存会」、「株式会社七転八倒」が東海農政局長賞を受賞した。

「多年にわたり、四谷の千枚田の保存活動を通して地域の活性化に尽力されている」ことを認められ、感謝状を拝受しました。

感謝状拝受の心境

私ども鞍掛山麓千枚田保存会にこの栄誉ある賞を賜り感慨の至りであります。

思えば、平成九年、偉大な先人の築いた「四谷の千枚田」の保存継承を目的に保存会を設立しました。

以来、保存会は四谷の千枚田を「地域の宝」と位置付け、耕作放棄地の解消、環境整備、都市交流、また、企業の新人幹部研修の受入れなど、暇なく取り組んできました。

こうした多くの取り組みが、自然発生的に新城市・愛知県の顔とまで謳われるようになり、揺るぎない地位を獲得しました。

急傾斜地、日本三大石積棚田の保存継承は大変です。それでも会員は先祖の偉大な遺産「四谷の千枚田」を守り続けております。

そんな努力が、新城市功労者表彰感謝状拝受に結びついたと思います。

すし、この栄誉ある賞を糧に保存会は新城市の顔「四谷の千枚田」を地域の宝として保存継承に、ますます頑張っていきたいと思っています。

奥三河トレラン エイドステーション運営協力

奥三河トレイルランニングレース(Trail Running Race)の概要

平成二十七年に開催した「奥三河パワートレイル」は、東海自然歩道開通五十周年の節目の今年、「奥三河Trail Running Race」と名称変更、コースは新設カテゴリーの三十五km。地域に暮らす奥三河の温かい人々のおもてなしを受けながら、東海自然歩道でのレースを展開する。

開催日

令和六年十月二十七日(日曜日)

選手受付（当日のみ）　午前五時三十分～午前七時(田口小学校)

スタート　午前八時(田口小)

フィニッシュ制限　午後六時(ふれあいパーク)

出走者　約三百人

この大会のエイドステーション(ふれあい広場)の運営を依頼されました。これには地域の皆さんの協力が不可欠です。当日は参加選手の到着は九時半頃を想定、到着した選手には「おにぎり」や「シシ汁」を振る舞います。そのため、出役、協力して頂く皆さんには早朝から炊き出し等、準備をお願いすることになります、そこんところをご理解いただき、ご無理は承知ではありますが、ご協力をお願いします。

鳳来寺小の稲刈り

鳳来寺小学校は平成二十八年度に鳳来寺、海老、連谷の四校が統合、千枚田では旧連谷小学校時代から学校田があり、米作りを続けてきた。

鳳来寺小五年生(九人)は五月十七日に田植えを行った。以降、児童たちは稲の生育状況を兼ねて多様性に富んだ四谷の千枚田の自然・生きもの観察など、校外学習の場として頻繁に訪れていた。

九月十九日、児童たちは、豊作を夢見て「今日は稲刈りだ」とわいわいがやがやと勇んで来たものの田んぼの稲を見て唖然。つい、先日来た時には黄金色に色ずんだ稲を見て豊作間違いなしと思い込んでいたようであるが、ニホンジカに稲は踏み倒され、稲穂は喰いちぎられ、

無残な惨状にビックリ。幼い目が悲しく映った。それでも児童たちは丹精込めて育てた稲であり、おコメの大切さを逆に悟り、せっせと稲刈りに励んだ。

収穫した稲は予想の半分にも満たない量であったが、学ぶことは大きかったようだ。

児童たちには、農家は自然相手(天候・獣害)で思ったようにはいかない、数年前まではイノシシの被害が大きかったが、昨年はほとんどの田んぼにニホンジカが入り大きな被害があったし、今年は出穂期からサルの軍団(多い時には約五十匹)が田んぼの稲穂を食べるために侵入、踏み荒らされた。サルは電気柵や獣害防止柵で防げるものではない。農家は野生動物(イノシシ、ニホンジカ、サル)の被害をくい止めるために電気柵やノリ網、カラーテープを張ったり、爆竹、ロケット花火などで威嚇したりして、少しでも被害のないように日夜頑張っている。等々、自然との闘いを児童たちに説いた。

JA愛知東こども農学校
さぁ！みんなで一緒に、ふるさと奥三河の大自然の中へ飛び出そう！

JA愛知東は一年間の農業体験を通じて、こども達に「食」と「農」の大切さを教える「こども農学校」を開校しており、今年が記念すべき二十周年目で十一校八十三人の児童が参加した。

稲作体験

九月二十一日(土)、曇りのち晴れ。「四谷の千枚田」で五月十一日に植えつけた米「ミネアサヒ」の稲刈りを行った。

予定では親子参加であったが、当日の天気が雨模様で、急遽児童のみの参加となった。この日は夏並みに暑かったが晴れて稲刈り日和になった。送迎バスを降り、学習田までテクテク歩いて行き、JA職員から稲刈りの指導を受けて稲刈りを、そして刈り取った稲を稲架(はざ)に掛けるまでの農作業を体験。汗だくの暑い一日であったが児童たちは「食」と「農」に携わる厳しさを身を以て体験した。

後日談=稲架が倒れた。たぶん、稲架のなるん棒が折れちゃったか、できすぎて稲が重かった…かも？これも、今後の教訓となったようだ。

◆内閣府地方創生推進事務局から「地域活性化伝道師」に小山舜二が地域おこしの専門家として継続登録された。

今後の予定

十月十五日、市内千郷小学校三年生(四十名　校外学習)

十月十七・十八日、全国棚田サミット(七名参加　長野県上田市)

十月二十日、保存会環境整備活動

十月二十四日、絵画CN審査会

十月二十七日、奥三河トレイルランニングレース運営協力

十一月十一日、ふるさと指導員全体会議　(豊田市稲武町どんぐり工房)

発行　令和六年十月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文責　小山舜二